

## 第二回 防災懇談会議事録

10月20日(木) 10:00~11:00 於：防災センター

### 《危機管理室長挨拶》

本日は第2回防災懇談会に多忙な中ご出席いただき、感謝します。

ところで、本日、区は管理職員を対象として、緊急参集訓練を実施しました。管理職員は、5時前後に連絡を受け、7時半までに防災センターに参集する、ということで実施した結果、98名中9割以上の出席となりました。

緊急連絡網が機能するか、緊急初動体制がうまく立ち上がるのかを検証する目的で実施しましたが、議会開催中という条件の中、十分な成果があったと考えています。

区長は、これからのいろいろな条件設定の下で、やっていこうと考えています。

昨日も、茨城県の方で地震があり、練馬区内は震度3でしたが、最近、地震が続いている状況です。やはり、いざというときのために、日ごろの備えが必要ではないかと考えています。

アメリカのニューオーリンズのハリケーンによる水害にしても、パキスタンの大地震による被害にしても、テレビのニュースでクローズアップされるのは、政府が何もしてくれないとの声です。

練馬区の場合には、地震が起きた場合には区民からそのような声がでないように、自助、共助、公助、これらの力をさらに強めていかなければならないと考えています。

こういう意味からも、委員の皆さんから、率直な意見をいただき、懇談会を実りあるものとしたいと考えています。

座長

つぎに、前回保留されていた、副座長の選任の件については、秋山委員を副座長としたいがいかがか。

(拍手で了承)

それでは、秋山委員に副座長をお願いする。

座長

つぎに、訓練参加に伴う意見交換について、まず、懇談会の運営方針についてから論議をお願いする。

昨年までは会議方式で行っていたが、今年は、会議の回数を減らし、訓練を見学し、それに対する意見交換を行う方式である。会議は年3回だが、これを少ないという委員もいるかとは思うがどうか。

では、今年度は、これでやらせていただくこととする。

また、これについての意見等は次回2月16日に委員から意見を募る。事務局、次回の議題にこれを含めるように。

つぎに、連絡方法について、事務局から報告をお願いする。

事務局

今回、初めての試みとして、懇談会委員の皆さまが、地域で実際に行われている会議や訓練に参加して、レポートを提出していただくという方式をとらせていただきました。

その際に、事務局の周知、連絡の不徹底により、ご不快な思いをされた件につきましてお詫びします。

これ以降、会議・訓練等の前日または前々日に、事務局からメールを出して連絡するように改めまし

た。また、日程については事前にお示していますが、改めてその具体的な内容をお伝えするように改めました。この方法で差し支えないかどうかを確認いたしたいと存じます。より良い方法がありましたら、提案をお願いします。

角地委員

訓練参加委員に、概要・予定・必要な準備等を知らせてもらえるのか？

事務局

訓練担当者に直接確認し、資料があればそれを添付してお送りします。資料がない場合には、最低限日程、場所、担当者名をお知らせしています。

小野沢委員

受け入れ態勢に問題がある。訓練主催者である地域の皆さんが、懇談会委員が見学に来ることを認識していなかった問題があった。

今後はこのようなことはないように、地域に知らせて、理解を得た上で参加していただき、情報交換ができるようにしたいと考えている。

座長

地域の避難拠点運営連絡会では事前準備会議、訓練実施、反省会までやっているのか。

反省会まで参加した方が、目的や問題点を見出しやすいのではないか。

小野沢委員

訓練を行っている避難拠点全てで、反省会が行われているということはないが、少しずつ増えている。以前から訓練を盛んに行っている所は、反省会が行われている。

角地委員

懇談会の運営にも関連するが、参加対象の訓練が、地域により内容に濃淡がある。

反省会まで行くところは、極めて少ない。

きっかけづくりのために、他の催し物と一緒にやっているものが多く見受けられる。

訓練が行われている 103 校の活動状況はバラバラである。

地区の運営連絡会がどの段階になるのか、対象の訓練がどのようなレベルのものか、こういったことが説明もなく、なにも分からないままに、スケジュールだけで行っている。

参加の前に、訓練がどのような内容であるのかは教えていただきたい。

103 箇所の各拠点のレベルの一覧表があると良い。

小野沢委員

評価の一覧表はあるが、あくまでも区の見方であり、公表していない。今後も公表する予定はない。

あくまでも区側からの評価であり、実際に活動している地域の皆さんからの視点とは違うので、このままお示しすることはできない。

防災は、地域が育つ過程が必要であり、進んでいる地域を「A」として、遅れている地域を「D」ランクという決め方を行って評価した場合、地域と行政とでは評価が違う。地域は A ランクでも D ランクでも、いろいろな思いをもって懸命に活動している。

地域に対して、どのような形でこれをお示しできるのかを考えるのも、この懇談会からの意見をきっかけとしたい。

一つひとつの拠点の状況はお話することはできる。参加する訓練が決まった委員には、お知らせするようにしたい。

小田委員

避難拠点の活動について、より科学的に検証したいとあったが、参加した訓練のテーマとこの検証のテーマが離れているのではないか。

防災懇談会のテーマと、紹介する訓練のコンセプトと、違うのではないか。

一覧を見ると趣旨に合わないものが入っている。整理してもらいたい。

座長

毎年コンスタントにやっているところを出してきたのではないかと思う。

小田委員のお考えはもっともだと思う。ただ、個人的には地域で行われる訓練は、地域性があるって良いと思っている。

画一的にやるよりも、高齢者の多いまち、若者が多いまちで、やり方が違うのが当たり前である。拠点の特色が示されるとわかりやすい。

近藤委員

初めて避難拠点訓練を見た。今回、谷原小と大泉小の2箇所を見た。

事務局から、その避難拠点の活動が示された。前もって、どういう訓練が行われるのかが示されなくても、勉強にもなった。レポートにも書いたが、地域ごとに能力というものもあるし、差がある。

一律に、行政による指導で「ここまでやれ」とかではなく、地域で決めたものをやるべきだと思う。

川口委員

私は南町小学校避難拠点委員会の一人である。地域の一人ひとりに、防災のことや地域の連携のことを理解していただくまでに、5年6年とかかる。高齢者（町会）、中堅（PTAのOB）、若手（PTA）が理解しあえるようにしないと運営できない。

南町小では8年苦勞して、ようやくみんなが理解できるようになった。

10月から1月までのスケジュールに、11月23日に南町小の訓練がある。

内容が書かれているが、実際に行うまでには、地域での論議を重ねていくので、内容が変わる可能性がある。

秋山委員

地域の人は一生涯懸命活動されている。レポートは気を使っているのが判る。見せていただいて、心から感謝をしている。

小田委員がおっしゃるのは、懇談会員として何かを、別に視点から見て何か気づくことがあれば、という意味から言えば、武蔵大で行われる防災講演会やポンプ操法大会は、単純にレポートは書くことができないということではないか。

小田委員

レポートを書くことが目的ではない。避難拠点を今後、どのようにしていくのかが、今回の懇談会の

趣旨ではないか。であるならば、それにもとづいた訓練を見に行くべきではないのか。

心のあかりの活動はすばらしいが、これはどう避難拠点と結びつくのか。これをレポートすることはできない。

避難拠点の今後を論議するのであればそれにふさわしい訓練を見に行かないと、意味がない。

半年間という短い期間で結論を出すのであるから、無駄は排除して、今年度の趣旨にふさわしいものに特化した内容でないと、成果がでないのではないか。まとめができないのではないか。

#### 小野沢委員

避難拠点の本質は、防災拠点である。

防災拠点だけでは立ち行かないので、避難所の運営も併せ持った形で、避難拠点としている。

当初は、町会、PTAなど、集まりやすい形ではじめた。ただ、それが良いのかは議論の余地がある。企業、自衛消防隊などの防災組織はまだあるし、ほかの集団もあるだろう。

避難拠点で活動している方々も含め、防災組織には、なすべきこと全てをまだ示していない。まだ実践していない部分をまぶしてあるので、結果としてピントが絞りがきれていない。活動の中心にあるものと外側にあるものも見ながら、避難拠点運営連絡会の方向性を出していきたいと考えている。

#### 角地委員

少し難しい。我々に参加を求めるなら、問題を整理して出さないとわからない。

小野沢委員が理想と考えていることは理解できるが、できる限りわかりやすい形で整理して提供してほしい。

行政としての評価はあるだろうが、それを求めているのではない。

関係者がいくつかあるなら、そういう客観的事実もだしたらどうか。

最終的な避難拠点運営連絡会の姿があるとした場合、ある地域で3つの町会があるとすれば、その3つ全てが避難拠点運営連絡会に参加しているのかどうか、参加していないとすればそのうち幾つ出ているか、ばらばらにやっているのか、PTAはからんでいるのか、学校関係者がどれくらい出ているか、昨年一年間に会議が開催されているのか、というような客観的情報を出してはいいのではないか。

各地区の個性を大事にししながら、理想に近づけるための共通するものを見出したいので、このような試みがあるのだから、なるべく客観的に整理して情報を提供しないと成果が生み出せないだろう。

単なる一般区民への情報提供では、我々委員としてはいただけない。

#### 寺門委員

小田委員の言おうとしていることは、避難拠点が上手く運営されているかを見てきて欲しいということが目的である、という意味だったのではないか。

現実には、わたしの行った大泉第一小学校では、学童の避難訓練と防災訓練が実施された。

その訓練の運営を見てくる、ということが目的だと考えた。

しかし、運営主体は避難拠点運営連絡会ではなかった。視点をきちんと決めてあれば、その視点で見ることができたのではないか。あれでは訓練運営主体の姿が見えてこない。

避難拠点運営連絡会は、避難所の運営が目的だが、実際は防災訓練などを運営している。

そのあたりの視点のズレが見えてくる。拠点運営に視点が向けられているかという点に絞り込んだものを見たい。

#### 副座長

寺門委員の言うように、訓練が目的になっていて、手一杯で大変になっている印象がある。  
大泉西小に行ったが、事前会議から訓練、反省会まで参加した。  
そこまでやって、初めて全体が分かる。参加者にアンケートも行っていたが、このようなところをピックアップすることは可能か。

小野沢委員

訓練があるので、地元は時間がかかる。

副座長

打ち合わせや反省会に出たのでよくわかった。最初から最後まで見ないと分かりにくい。  
トータルで見ることのできるものはこのリストの中にそういった所があるか。あれば、各委員もそこに参加したほうが良い。

小野沢委員

確かにそう思うが、スケジュールに合わない。  
南町小では、準備、本番、反省会の順で行われている。

副座長

他の拠点で、事前と本番がおさえられていれば、よくわかるかもしれない。

小野沢委員

大泉北は可能性がある。

秋山委員

もう一度、中味を検討しなおしていただければと思う。自由参加で、レポートが必要ないものはご紹介だけとし、そのように追いかけられるのはそれとして紹介する。

寺門委員

被災者が多数入り、混乱をどうさばくかの訓練はあるのか。

川口委員

南町小の訓練は、これだけを見ると「あーこんなものか」としかならない。  
南町小は、平成 12 年に、都との合同訓練をやったが、避難拠点の活動を見るのであればそのときの活動を見ていただくのが良かった。  
今回は、その時の訓練とは違い、避難拠点運営連絡会メンバー同士の連携がうまく行くかどうかを検証する訓練を行う。今回の趣旨に基づく視点で見ると物足りないかもしれないが、模擬的なものもやる。

角地委員

避難拠点運営連絡会として、それにふさわしい訓練を行っているところは、我々が全員参加できることはできるのか。  
我々は、避難拠点の運営の訓練を正統に行っているところは、数少ないのだろうと思う。  
正統な活動になるまでの途上を見るのであれば、状況の説明を受け、目標とすべきところはなにかが

示されないと、混乱が生じる。

座長

事務局絞り込めますか。

事務局

関係の係と相談して再提示します。

座長

改めて吟味したものが提出されるので、お待ちいただきたい。

次に、皆様からの訓練参加の報告書だが、事務局が試案としてまとめたものである。

副座長が、別にまとめて、テーマを絞り込んだ資料がある。副座長、説明をお願いします。

副座長

昨晚、ようやく出来たので、事前に差し上げておりません。

事務局よりまとめたものを先にいただき、また、委員の提出されたレポートを熟読し、参加した訓練の個別事情が列記されている状態であったり、訓練の参加者が特定されている場合にのみ言えることであったりするものが羅列されている状態のものであったので、整理させてもらった。

<副座長がまとめた文章を説明>

レポート以外も、補足事項はあるか？

近藤委員

大泉学園小では、校庭開放まつりも兼ねていたもので、大勢の人が集まった。こういった機会を捉えて、耐震相談コーナーを設けるように取組んではどうだろうか。

副座長

ほかには。

寺門委員

防災訓練の日程を設定するとき、雨天のときは室内で云々とあるが、災害発生は天候を選ばないので、どんな天候でも行うべきではないか。

内田委員

訓練を見ていたときに、外国人を対象にしていない。外国人を対象に含めてもらいたい。

区に外国人担当の窓口はあるのか。東京都は生活文化局が担当している。

避難拠点は平時を想定している。奪い合い状態を想定していないのか。一般論ではなく、各論もやってはどうか。

久井委員

避難拠点では、帰宅困難者を対象としているのか。大変心配している。膨大な数の群集を対象にしているなら、強力なリーダーシップが必要かと思う。

全く対象外なのか、あるいは別のところで行うのか。

#### 副座長

ガソリンスタンドやコンビニエンスストアは協定を結んでいるので、帰宅困難者への対応はできているようになっている。

#### 川口委員

当然帰宅困難者を想定している。地域住民のみを受け入れるという考えはない。

南町小は、練馬駅に近い。駅から徒歩で帰宅する者も考えられるので、地域の顔見知りだけに限らず、全て来た者は受け入れることとしている。ペットも対象としている。

7町会を集まってもらった。対象は数千人を考えている。

避難拠点のメンバーは、事務局として、周りの町会が、各部のものにあたるよう援助の SOS を出した。この仕組みは、スタートしたばかりである。

保科委員が情報担当で、地域へ「避難拠点だより」も出している。

#### 小田委員

練馬区としては、帰宅困難者は区内に残留させるという考え方なのか。

#### 小野沢委員

お休みいただき、次に行くまでに、うまく通過していただくという考えである。帰宅困難者の訓練をできるだけ早めに入れて行きたいと考えている。

#### 副座長

これに付け加えること、その他をどう加味するのかを、お考えいただきたい。

<休憩>

#### 副座長

別紙、第一の目的、テーマ等について

#### 寺門委員

人が集まる時は、何で集まったのかがはっきりしていないと伝わらない。

対象者が一般の人の場合、避難拠点運営連絡会の、避難拠点を運営する訓練となると、連絡会の人々がそれを統一的に意識しているかどうか。

目的が見えているかどうかも見たい。

#### 小松委員

立野小、大泉中を見た。昔は訓練を実施する立場だった。参加者が各種各層から参加して、広がっていくことが理想だが、毎年同じメンバーが参加していると嘆かれている。子ども、災害要援護者にどう対応するのが大変であり、重要ではないか。

#### 高橋委員

運営連絡会の仕事の訓練という話があったが、自分自身、10年携わってきた。

受け入れ訓練は何回も実施した。多くの人に参加してもらおうと、スーパーマーケット前でチラシを配ったり、町会掲示板に貼ったりしたが、結果は限られた人数のみの参加だった。なかなか集まってもらえない。

大泉西中学校では、昨年は中学三年生を対象に行った。今年は中学一年生を対象とした訓練を実施する。内容は、仮設トイレの組み立てと解体、消防署の指導による担架搬送、三角巾である。

避難拠点のやることかという疑問も有ろうかと思う。我々としては、中学生に防災意識を高めてもらい、後に、我々の活動に参加してもらい、このような、いわば種まきのようなことをしている。

#### 角地委員

町会単位で行っている訓練は、昔から同じことをやっている。この活動が避難拠点運営連絡会の活動につながっていない。

一回ごとの訓練の目的、それと長期的な展望のもとで、その課程のなかで活動を行っているという指導が必要である。

#### 寺門委員

一般の人の参加が少ないのなら、区の警報（防災無線放送塔）を流すなど、個々の防災訓練の際に活用してはどうか。

#### 副座長

いままで発言がない方からの発言を求める。谷治委員から。

#### 谷治委員

従来の防災活動から、避難拠点の運営へ、急に変わったので頭を整理しないといけない。

近隣の石神井東小学校はよく頑張っている。

#### 宮澤委員

谷原小学校の訓練へ参加に感謝する。

拠点に関わって4年目である。60～80歳の方々の中に入り、発言させてもらえるようになったのはやっと今年である。

レベルの話があったが、そうではなく、できることをチェックして、それを「スペック」として示していただくと、来ていただく方には分かりやすいのではないか。

動きを書いていただいたのはありがたかった。

他の避難拠点の活動を見せていただき、うらやましくなるような要員、学校があった。

自分たちも高める必要性を感じるが、それにあって協力体制ができていない。作り上げたいが、なかなか難しい。

#### 保科委員

訓練報告のまとめ方について、委員ごとにまとめられているが、訓練ごとにまとめた方が良い。

そして、冒頭に人数とかの訓練概要を示すとよいのではないか。<sup>そうばな</sup>総花的まとめになってしまっている。

南町小学校でも、これまでは試行錯誤の連続で、子どもも一緒に、起震車も一緒に、という総花的で



あった。

昨年からは、避難拠点に的を絞ってやろう、ということで訓練を行っている。

今年は、拠点要員以外の地域の方にも、意識を持ってもらうようにやろうと考えている。

久井委員

練馬区はまだ、いろいろな方が参加していただける余地がある。

阪神・淡路大震災から11年たって、自主防災活動が大変盛んになってきたと見ている。

できるだけ良いところを伸ばして生きたいと考えている。

先日、光和小学校の避難拠点活動について話し合いがあったが、きっと良い方向に進んでいくものと確信している。

急ぐつもりはないが、良いほうを見て進めていきたいと考えている。

鈴木委員

練馬区内には、いろんな方面のスペシャリストが沢山いる。それぞれを上手く繋ぐご苦労があるかと思うが、私達がいろいろな避難拠点に参加することによって、一人ひとりに得るものがあると思う。これを大切にしたい。

スペシャリストをつなぐコーディネーターは、防災課のみならず、私達もやっていく必要がある。

私の属している避難拠点はまだ玉子状態である。各拠点で温度差があることを知った。このリストに載っている訓練で、避難拠点訓練でないものであっても、とても勉強になる。

個人的にはできるだけ参加したいと思う。

小松委員

避難拠点運営連絡会の皆さんに、懇談会委員が行くことを周知徹底しているのか。

大泉中では周知された。立野小では、紹介も無く、数名に個別説明をすることになった。

内田委員

先ほども話したが、外国人のことだが、都の生活文化局に行ったが、その話では、練馬区の防災課は評価が高い。

鈴木委員

「心のあかり」が防災担当大臣賞をもらったことを皆さんにご紹介する。

副座長

拠点の中に、福祉担当者（高齢者のケア）を組み込むことを願っている。

小松委員

谷治委員からパンフレットが配付されたが、民生委員等に紹介しているか。民生委員をやっているので、福祉課を通じて連絡して欲しい。

谷治委員

NPO 活動を通じて、福祉車両を災害時の緊急時利用を考えている。

副座長

小松委員の疑問と、スケジュールについて

事務局

スケジュールは改めてお示しします。

希望調査は、スケジュールをお示ししてから伺います。

次回は、2月16日開催です。